

図書館員が選んだおすすめ本 100冊

ヨコテ

Yokote City Librarians **One** Hundred Recommended Books 2022



2022・第76回 読書週間
10/27～11/9

この一冊に、ありがとう

たくさんの中からどんな本を読んだらいいか迷ってしまう、
そんな人に、本を選ぶきっかけとなるブックリストを作成しました。
横手市立図書館で働く図書館員 21 人がそれぞれに選んだ一冊です。

これ面白いから読んでみて！私が選んだ本の話をししましょう！
そんな想いを持って図書館でお待ちしています。

あなたの一冊に出合ってほしい。
みなさまに本との新たな出会いが訪れますように。

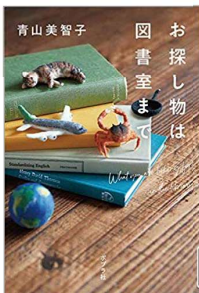
横手市立図書館

※本の紹介文はニックネームで掲載しています。

※掲載の 100 冊はすべて市内の図書館で借りることができます。
お近くの図書館にないときは予約してください。お取り寄せいたします。

『お探し物は図書室まで』

青山 美智子/著 ポプラ社 2020



913.6ア

人生に迷いを感じ始めた5人の男女が、それぞれにふと訪れた小さな図書室。「何をお探し?」不思議な司書の声に促され、いつの間にか本音を吐き出すと……。意外な選書と付録が心を軽くして元気を分けてもらえる連作短編集。(Rin)

『捨ててこそ空也』

梓澤 要/著 新潮社 2013



913.6ア

天皇の子として生まれながら、母親と共に宮中から追い出された常葉丸。母の死後、都から出奔し仏の道に進んだ彼は人々の苦しみに初めて気づく。念仏を唱え、民を救おうとした空也聖の生涯を描いた物語。(わいわい)

『骨を彩る』

彩瀬 まる/著 幻冬舎 2013

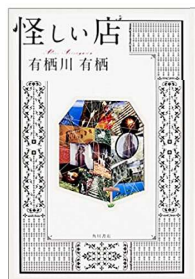


913.6ア

妻を亡くした男、その男と恋仲になりそうだった女、男の娘で母を知らず育った少女。何かをなくした過去を抱える人物たちの、日々の出来事や心の機微を丁寧に描く。5編からなる連作短編集。(T)

『怪しい店』

有栖川 有栖/著 KADOKAWA 2014



913.6ア

悩みや愚痴を聞く“だけ”の店。10日後じゃないと売らない偏屈な古本屋。ちょっと変わった「店」で起こる事件を、犯罪学者・火村と作家・有栖川がバディを組んで解決する短編ミステリー。表題作ほか4編。(まる。)

『代償』

伊岡 瞬/著 KADOKAWA 2014



913.6イ

小6の佳輔は不幸な事故で両親を亡くし、遠縁の達也の家で暮らし始める。そこで過酷な生活を強いられるが、友人の助けを借り逃亡する。成長し弁護士になった佳輔に強盗殺人事件の容疑者となった達也から弁護の依頼が来る。(ノラネコ)

『テンペスト (上・下)』

池上 永一/著 角川書店 2008



913.6イ

幕末の琉球、没落士族に生まれた真鶴は性を偽り宦官になると持ち前の才覚で国難に立ち向かう。陰謀や嫉妬が渦巻く王宮の役人との攻防、薩摩武士への秘めた恋心、ドラマチックな場面が次々と展開される大河小説。(ゆこりん)

『砂漠』

伊坂 幸太郎/著 実業之日本社 2005



913.6イ

仙台市の大学に進学した北村が出会った4人の男女。合コン、麻雀、ボウリング、さらには凶悪事件に遭遇するなど、皆で過ごす日々はあっという間。無茶な出来事にも臆せず立ち向かい絆を深めていく青春物語。(菅さん)

『我が友、スミス』

石田 夏穂/著 集英社 2022



913.6イ

自己流のトレーニングで体を鍛え続ける女性U野。ボディ・ビル大会に出場することになり筋肉を磨き上げるが、ボディ・ビルは筋肉以外に、今までU野が無頓着だった「女らしさ」を見せる競技でもあった。(T.T)

『ぼくの手はきみのために』

市川 拓司/著 角川書店 2007



913.6イ

原因不明の病に蝕まれる聡美の発作を抑えられるのは、彼女に守られてばかりいた幼馴染のひろだけだった。長い時間をかけ育まれた、かけがえない様々な愛情の形をテーマにした、表題作を含む3編の短編集。(かぼちゃ)

『キャベツ炒めに捧ぐ』

井上 荒野/著 角川春樹事務所 2011



913.6イ

惣菜屋「ここ家」で働く60代独身女性3人の物語。彼女たちが背負う過去や抱えている想いが、料理の細やかな描写と共に絡み合って広がり、3人それぞれの人生も味わえるような気持ちになる作品。(Y.K)

『忘れ物が届きます』

大崎 梢/著 光文社 2014



913.6イ

胸の奥に封印していた秘密が歳月を経て明らかになる5つの短編集。元小学校教師が20年前の同夜に起きたふたつの事件をひもとく『沙羅の実』をはじめ、過去から届く決して穏やかでない「忘れ物」の真相はせつなくも優しい。(パセリ)

『とにもかくにもごはん』

小野寺 史宜/著 講談社 2021



913.6イ

亡き夫との最後の会話をきっかけに「クロード子ども食堂」を開いた主人公の松井波子。第5回目の食堂開催の日、時間の経過に従ってスタッフや利用者の色々な事情が描かれる。閉店間際のひとつの奇跡に向かって。(⊕)

『おさがしの本は』

門井 慶喜/著 光文社 2009



913.6カ

図書館を舞台にした連作短編集。和久山の勤める図書館に、市の財政難を理由にした図書館不要論を掲げる新館長が赴任してくる。存続のために思考を巡らせる中で和久山は消えかけていた仕事への情熱を思い出していく。(おこめ)

『二百十番館によこそ』

加納 朋子/著 文芸春秋 2020



913.6カ

両親により、老人と猫しかいない離島へ放り出された引きこりの主人公。自活のために始めたニート限定のシェアハウスに、少しずつ人が集まりました。ちょっぴりメンタルの弱い青年たちが一歩一歩成長する姿を描く物語。(ふっくん)

『スイート・マイホーム』

神津 凜子/著 講談社 2019



913.6カ

「冬でも半袖一枚で過ごせる暖かさ」が売り文句の“まほうの家”。長野の冬は寒く、子育て中の妻のためにと賢二は新しい家の購入を決める。しかし新居に引っ越した直後から奇怪な現象が起こり始め一家を恐怖の出来事が襲う。(ノラネコ)

『カフェ、はじめます』

岸本 葉子/著 中央公論新社 2015



913.6ナ

古民家に魅せられたアラフォー独身女子のいさみは、その家の売却取り壊しを阻止したい一心でカフェを開く決意をする。数々の難題をクリアし大家さんや旧友などの助けを得て「おおすびカフェ」を開店させる。(パセリ)

『だから荒野』

桐野 夏生/著 毎日新聞社 2013



913.6ナ

46歳専業主婦の朋美は家族に嫌気がさし、自分の誕生日に突然車で家出するが、その後を受けた裏切りや出会いにより、彼女の心境は大きく変化する。家族に理解されない葛藤や悩みが交錯する、現代社会の縮図を描いた物語。(Y.K)

『介護士 K』

久坂部 羊/著 KADOKAWA 2018



913.6ク

介護施設でおきた入居者転落死亡事故から物語は始まる。真実を追う記者の朝倉と話題の渦中にある愛くるしい顔立ちの男性介護士。正義か偽善か、事件か事故か。現実の社会問題をテーマにした医療小説。(ことら)

『ハロワ!』

久保寺 健彦/著 集英社 2011



913.6ㇿ

厄介な相談者が多いハローワーク宮台。職員の沢田信は、慣れない仕事に陰でため息をつきながらも、丁寧に誠実な対応を心掛け、熱心に行う。目の前の事を精一杯頑張る信の視点で進展していく、全8編の物語。(砂糖さん)

『人間に向いてない』

黒澤 いづみ/著 講談社 2018



913.6ㇿ

「異形性変異症候群」という名の奇病は、若者の中でもある一定層のみがかかる病で、罹患すると人間としての死を意味する。異形の姿に変貌した我が子愛せるかという疑問と家族のあり方を問うミステリー。(ノラネコ)

『震える教室』

近藤 史恵/著 角川書店 2018

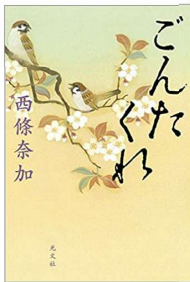


913.6ㇿ

放課後のピアノ練習室、保健室のベッド、プールの水底。この学校には、何かがある。不思議なものが「見える」女子高生・真矢と花音が、伝統ある女子高で起こる怪異に力を合わせて立ち向かう。(I.K)

『ごんたくれ』

西條 奈加/著 光文社 2015



913.6ㇿ

円山応挙の弟子・彦太郎と京一番の絵師と豪語する豊藏。強烈な個性を持った二人の絵師の交流と、名声を高めていくまでの人生を描いた時代小説。躍動感に満ちた絵が目に浮かぶような描写で、江戸中期における京画壇の世界を堪能できる。(Y.K)

『雨の日は、一回休み』

坂井 希久子/著 PHP 研究所 2021



913.6ㇿ

セクハラの手紙で上司に呼び出された課長の喜多川、派遣社員でなりすましアカウントがストレス解消の石清水。こころの孤独を抱えた悩める5人の「オジサン」が一歩前に踏み出そうと頑張る連作短編集。(ことら)

『青空の卵』

坂木 司/著 東京創元社 2002



913.6ㇿ

坂木司は保険会社に勤める27歳。ひきこもりの友人・鳥居を何とか外へ連れ出そうと日々奮闘中。坂木が持ち込む事件の謎を解くのは、偏屈だが推理が冴える探偵役鳥居。ひきこもり探偵シリーズ第1作。(I.K)

『霧 (ウラル) 』

桜木 紫乃/著 小学館 2015



913.6サ

舞台は昭和30年代の根室。有力者の娘ながら芸者として身を立てる珠生は、後に相羽組の組長となる男の妻になる。町の汚れ仕事を請け負う相羽とそれを支える珠生の生き様が描かれ、北国に生きる男女の哀愁が感じられる。(ゆこりん)

『ブランケット・キャッツ』

重松 清/著 朝日新聞社 2008



913.6ッ

2泊3日限定で猫をレンタルするペットショップを舞台に、それぞれの事情から猫を借りる人々の人生と家族模様が描かれる。猫と人の出会いから生まれるあたたかくて切ない7つの物語。(I.K)

『デッドエンド』

柴田 哲孝/著 双葉社 2014



913.6ッ

服役中の笠原はある目的のため刑務所を脱獄する。なぜか彼の保護を命じられた公安の田伏は、過去の事件の不自然さが気になり独自に捜査を開始。一方、笠原の「処理」を企む一味が彼の逃亡を知り、娘を誘拐してしまう。(A2)

『所轄刑事・麻生龍太郎』

柴田 よしき/著 新潮社 2007



913.6ッ

著者の「RIKO シリーズ」に登場する探偵・麻生の、新米刑事時代を描いた短編集。上司も認める独特の勘と丁寧な捜査で事件を解決に導く様子や、先輩刑事及川との関係も絡め、自分を持って余し葛藤する姿が興味深い。(Rin)

『空を見上げる古い歌を口ずさむ』

小路 幸也/著 講談社 2003



913.6ッ

ある日突然「みんなの顔がのっぺらぼうに見える」と言い出した息子。少年時代に同じ経験をし、姿を消した兄。20年ぶりに再会した兄が語る、故郷の町でかつて起こった事件の真相とは。昭和ホラーミステリー。(I.K)

『化け者心中』

蟬谷 めぐ実/著 KADOKAWA 2020



913.6セ

鳥屋を営む藤九郎は、元人気女形田村魚之助と共に芝居小屋に出るといふ鬼の真相究明に乗り出す。自由奔放な魚之助に振り回されながら鬼の正体に近づく藤九郎。煌びやかな舞台の影に潜む役者達の闇を描いた怪異ミステリー。(ゆこりん)

『戒名探偵卒塔婆くん』

高殿 円/著 KADOKAWA 2018



913.6 7

金満寺の二男・春馬が困ったときに頼るのは同窓の高校生・外場くん。埋もれていた古い墓石の主探しやお寺救済イベントのアイデアなど、仏教関係のことなら何でも解決してくれる、風変りなお寺限定名探偵登場! (モフモフ)

『ジャーニー・ボーイ』

高橋 克彦/著 朝日新聞出版 2013



913.6 7

明治初期に日本の奥地を旅した外国人女性イザベラ・バード。彼女に振り回されながらも、命の危険にさらされるイザベラを守り、一緒に旅をした通訳兼案内係の伊藤鶴吉。実在する人物をモデルにした冒険歴史小説。(モフモフ)

『高架線』

滝口 悠生/著 講談社 2017



913.6 7

小さなアパート・かたばみ荘には独特なルールがある。それは、退居の際に次の入居者を退居者が探してこなければならぬこと。かたばみ荘の16年間を歴代の住人たちがリレー方式で紡ぐ「語り」の小説。(T.T)

『笑酔亭梅寿謎解晰』

田中 啓文/著 集英社 2004

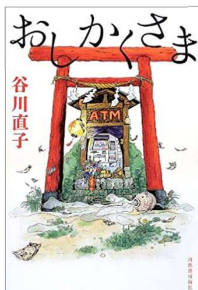


913.6 7

主人公の星祭竜二は金髪モヒカン頭のチンピラ崩れ。行く末を案じた高校の担任は上方落語の至宝・笑酔亭梅寿に弟子入りさせる。師匠の周りで起こる珍事件に巻き込まれつつも、落語の面白さに目覚めていく竜二の成長物語。(菅さん)

『おしかくさま』

谷川 直子/著 河出書房新社 2012



913.6 7

「おしかくさま」なるお金の神様を信じますか? 新興宗教と拝金思想にまつわる話を軸に、主人公が自己再生の一步を踏み出すまでを描く。登場する一家のお金と生活に対する価値観を通して、何を信じ生きるかを問いかける。(まる。)

『遠の眠りの』

谷崎 由依/著 集英社 2019



913.6 7

昭和初期、福井の貧しい農村出身の絵子は新たに作られる少女歌劇団の脚本係をすることに。そこで性別を偽り女優として生きる少年と出会う。女性の生き方が限られ、戦争の影が迫る時代を背景に少女達の成長を描く。(ゆりん)

『オバパディア』

田丸 雅智/著 潮出版社 2019



913.6㌿

憧れの職業1位がおばさんで公式おばさんになるための試験がある世界。一定以上の収入と品格のある人しか住めないプレミアム地方からのふるさと納税返礼品。設定が愉快で奇想天外な18のショートショート集。(ことら)

『透明な夜の香り』

千早 茜/著 集英社 2020



913.6㌿

元書店員の一香は、どんな香りでも再現できる天才調香師小川朔が開くサロンで家事手伝いとして働き始める。不思議な魅力をまとう朔や、彼が作る香りに翻弄される依頼者らと接するうちに一香も自らの心の傷と向き合う。(ゆこりん)

『書庫の母』

辻井 喬/著 講談社 2007



913.6㌿

著者の経済人としての名は堤清二。表題作では実家の書庫の整理をしながら、歌に生きた母の姿が思い起こされていく。母に贈られた死刑囚や同人の歌集に子どもの知らなかった世界があったと。半自伝的短編私小説集。(⊕)

『スタープレイヤー』

恒川 光太郎/著 角川書店 2014



913.6㌿

夕月は籤で1等賞を当て、異世界で10の願いを叶える力を手に入れた。絢爛な庭園を作り上げ気ままに暮らしていたが、ある日、同じ力を持つマキオが訪ねてくる。正邪入り混じる人間の内面を浮き彫りにするファンタジー。(ふっくん)

『ムーンナイト・ダイバー』

天童 荒太/著 文藝春秋 2016



913.6㌿

東日本大震災から5年。立入禁止の海域でダイビングを無許可で続ける瀬奈舟作は、秘密のグループに引き渡すため、海に沈んだ遺品を引き揚げる。震災後、生存者たちに残る心の傷や後悔に向き合う物語。(T.T)

『桜奉行』

出久根 達郎/著 養徳社 2016



913.6㌿

実在の人物、川路聖謨かわじとしひさからが残した記録を元に書かれた小説。主人公の川路は今で言うなら、優秀な実務官僚。疲弊した奈良に赴任し桜の植樹とともに古都再生に尽力し、後に幕末の敏腕外交官と呼ばれる。(⊕)

『北条政子』

永井 路子/著 講談社 1978



913.6ナ

1979年のNHK大河ドラマの原作のひとつになった歴史小説。伊豆の小豪族の娘がいかにして鎌倉幕府の御台所になったのか、そして絶頂期から訪れる不幸の数々。尼御台として幕府に君臨した政子の生涯を描く。(モフモフ)

『緋色の残響』

長岡 弘樹/著 双葉社 2020



913.6ナ

鋭い視点と考察が冴える刑事の母と、イラストは下手だけど囲碁で犯人の顔を再現する中学生の娘葉月。しぐさや物音にあらわれる犯人の心の揺れなど些細な変化を手がかりに真相にせまっていく親子パディミステリー。(ことら)

『くちびるに歌を』

中田 永一/著 小学館 2011



913.6ナ

五島列島の中学校の合唱部が舞台。臨時教員 柏木ユリの赴任をきっかけに、彼女目当てで入部した男子と女子の部員はぶつかりあう。それぞれに葛藤しながらも歩み寄りやがてコンクールに向けて心をひとつにしてゆく。(パセリ)

『図書室のはこぶね』

名取 佐和子/著 実業之日本社 2022



913.6ナ

ケガで体育祭に参加できなくなり代理で図書当番になった花音。掃除をしていて偶然見つけた1冊の本を調べると、持ち主は10年前に通学途中の事故で亡くなっていた。本と事故から意外な人物の悲しい秘密にたどり着く。(りんご)

『万事快調 (オール・グリーンズ)』

波木 銅/著 文藝春秋 2021



913.6ナ

工業高校に通う女子三人組はひょんなことから大麻の種を入手する。活動休止中の園芸同好会を再結成し、学校で大麻栽培を始める。田舎の閉塞感から抜け出すためにもがく、イカれた女子高生たちの青春物語。(わいわい)

『永い言い訳』

西川 美和/著 文藝春秋 2015



913.6ニ

作家の幸夫は、下積み時代を支えてくれた美容師の妻をバス事故で亡くす。しかし家族を突然失った事実に向き合えず、自分の体裁ばかり気にする毎日。そんな時に出会った友人家族との日々が幸夫の心を変えていく。(菅さん)

『Cの福音』

楡 周平/著 宝島社 1996

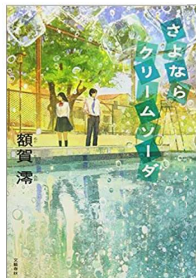


913.6 二

両親の死と、自らの正当防衛による殺人で人生が一変した朝倉恭介は、裏社会へと足を踏み入れる。日本へのコカイン密輸の完璧なシステムを構築し、非合法的なビジネスを始める。しかし一つの綻びからその計画が崩れ始める。(わいわい)

『さよならクリームソーダ』

額賀 滯/著 文藝春秋 2016



913.6 7

寺脇は家族との軋轢を抱え誰にも頼らない覚悟で美大に進学した。入学早々空腹で困っていたところを助けてくれた同じ寮の先輩、学校やバイト先で出会った様々な人に影響を受ながら今を生きる大学生の姿を描いた青春小説。(パセリ)

『洗濯 (クリーニング) 屋三十次郎』

野中 ともぞ/著 光文社 2018



913.6 1

洗濯の専門知識を持たぬまま後継者になった三十次郎と、先代から仕えてきた荷山の元へ「思い出の汚れは落とさないで」という服が持ち込まれる。汚れと共に染みついた思い出がやがて希望に繋がる、心に沁みのお仕事小説。(かぼちゃ)

『ニサツタ、ニサツタ』

乃南 アサ/著 講談社 2009



913.6 1

大学卒業後に就職した会社を2ヶ月で辞めてしまった片貝耕平。その後の仕事もうまくいかず、転落の一途を辿るばかりの日々から脱却できずにいた。挫折と絶望を繰り返す若者が、明日への希望を見いだすまでの物語。(T)

『旅する練習』

乗代 雄介/著 講談社 2021



913.6 1

小説家の叔父とサッカー少女の姪・亜美は千葉を出発し「文章を書く」「ボールを蹴る」練習の旅を始める。旅を通して成長する亜美の清々しさと、相反するような思いもよらない結末は人生という旅の光と影を感じさせる。(おこめ)

『横浜大戦争』

蜂須賀 敬明/著 文藝春秋 2017



913.6 1

突如、横浜の神が18区を中心とする土地神を決める「横浜大戦争」を宣言した。その真意を疑いつつも、土地神たちは自らの存在を賭けた戦いを始める。実在の土地を擬人化した奇想天外なコメディ。3巻まで続刊あり。(ふっくん)

『秘密のスイーツ』

林 真理子/著 ポプラ社 2010



913.6ハ

小学生の理沙が神社に隠した携帯電話。それを拾ったのはなんと66年前の戦時下の少女・雪子だった。時空を超えて友情を深める2人だったが、理沙の言った「日本は戦争に負ける」という言葉で雪子を激怒させてしまう。(I.K)

『母親からの小包みはなぜこんなにダサイのか』

原田 ひ香/著 中央公論社 2021

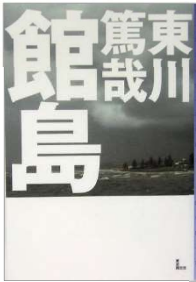


913.6ハ

様々な人から届く小包をめぐる物語。進学・転勤・結婚などをきっかけに身近な人々との関係を見つめ直す6人の男女が登場する。新しいコミュニティに対する不安や期待、おろそかにしがちな親と故郷への想いを描く。(A2)

『館島』

東川 篤哉/著 東京創元社 2005



913.6ㄷ

瀬戸内の小島に資産家が建てた不思議な館で、お約束のように起こる連続殺人事件。閉ざされた孤島を舞台にした、全編コメディタッチの本格推理小説。犯人は誰なのか、そして館に隠された謎とは。(モフモフ)

『跪き、道の声を聞け』

ヒキタ クニオ/著 PHP 研究所 2011



913.6ㄷ

関東最大の暴力団の会長が忽然と姿を消し、本人のものと思われる「小指」が事務所に届く。裏社会専門の探偵・時園は捜索依頼を受け、暴力団幹部候補の菅田と共に会長の行方を追う。犯人は誰か、そして会長の生死は一。(わいわい)

『禊の塔 羽黒山五重塔仄間』

久木 綾子/著 新宿書房 2010



913.6ㄷ

89歳の時、『見残しの塔』でデビューした著者が90歳を過ぎて紡ぐ、中世南北朝時代のもうひとつの五重塔の物語。宮大工、修験者、肝煎、地元庄内の女たち、さまざまな人々の思いと祈りをのみこんで、羽黒山五重塔は雪国出羽にそびえ立つ。(⊕)

『てのひらの闇』

藤原 伊織/著 文芸春秋 1999



913.6ㄷ

退職を目前に、恩ある上司から不可解な依頼を受けた堀江だが、その上司の自殺により謎は深まる。企業とヤクザのビジネスを背景に、戦う堀江をめぐる登場人物たちも魅力的に描かれた、ハードボイルドタッチのミステリー。(Rin)

『山亭ミアキス』

古内 一絵/著 KADOKAWA 2021

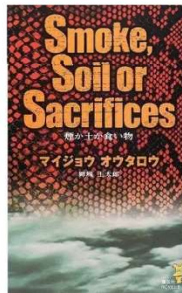


913.67

猫魔ヶ岳には悩みを抱える者がいつの間にか迷い込んでしまう宿がある。ここにいるのは奇妙なスタッフばかり。もてなしを受けた客は衰弱したり意識朦朧となったりと散々な目にあう。不思議な力を持つ猫と人との物語。(A2)

『煙か土か食い物』

舞城 王太郎/著 講談社 2001



913.67

アメリカの外科医である四郎の元に母親が凶悪事件に巻き込まれたと報告が届く。四郎は故郷に戻り血と暴力にまみれた家族の苦い記憶を辿りながら犯人を追い詰めていく。息もつかせぬ速度で進む物語は究極の家族愛を描く。(おこめ)

『あの日、君は何をした』

まさき としか/著 小学館 2020



913.67

家族4人で幸せに暮らしていたいづみ。ある日、息子の大樹が連続殺人事件の容疑者に間違われて警察に追われたことで事故死し、日常は一変する。それから15年後、新宿で起きた殺人事件と大樹の事件との繋がりが解明されていく。(ノラネコ)

『愛なき世界』

三浦 しをん/著 中央公論新社 2018



913.6ミ

料理人の藤丸は出前先の大学院で出会った本村に恋をするが、植物の研究に身を捧げる彼女にあっさり振られてしまう。植物への情熱を理解し、変わらず本村を思い続ける藤丸。終盤の彼の言葉に作中全ての愛が詰まっている。(おこめ)

『チョコレートTV』

水野 宗徳/著 徳間書店 2012



913.6ミ

番組をひとつ作るためにかかる、表からは見えない膨大な苦勞。華やかな映像の世界で、涙ぐましい努力を続ける裏方たち。プロデューサーやADの視点から見る、全6話のほろ苦くも優しいテレビ業界のお話。(砂糖さん)

『光』

道尾 秀介/著 光文社 2012



913.6ミ

小学4年生の利一と仲間たちの冒険譚。人魚伝説の謎や誘拐事件など、遊びの延長線上に様々な出来事が発生する。体験したことはかけがえのない思い出となり、大人になっても忘れられない財産となっていく。(T)

『アルツ村』

南 杏子/著 講談社 2022



913.6ミ

夫の暴力から逃げ出した母娘が辿り着いた先は電気柵で囲まれた「シルバーアーツ福祉村」。二人は認知症の老人の家で暮らし始める。ところが住民の葬儀で遺体に異様な手術痕を見つけ、介護スタッフや村への疑惑が高まる。(A2)

『アゲハの公約』

三萩 せんや/著 河出書房新社 2017



913.6ミ

名物が梅林しかない地元が嫌で東京暮らしをしていた上葉は、ひょんなことから地元の市長選挙に出馬することになる。実現不可能とも思える公約を掲げ活動する上葉とそれを支える人々。驚きの展開となった、実話に基づく選挙戦のお話。(砂糖さん)

『超動く家にて』

宮内 悠介/著 東京創元社 2018



913.6ミ

分厚い雑誌を収納しやすいように小さく圧縮する技術が競技化。主人公・梶原と伝説の男・坂田の戦いの幕が切って落とされる(「トランジスタ技術の圧縮」)。表題作を含む、全16編のSF短編集。(T.T)

『始末屋』

宮本 紀子/著 光文社 2015



913.6ミ

吉原で借金の取立を行う始末屋「だるま屋」の直次郎は、吉原屈指と名高い真鶴花魁から、花菊花魁に怪我をさせた犯人捜しと取立の依頼を受けるが、解決の糸口は見えてこない。愛憎渦巻く吉原の廓で直次郎は難事件に挑む。(砂糖さん)

『悪魔のパス、天使のゴール』

村上 龍/著 幻冬舎 2002



913.6A

サッカー・イタリアリーグでの試合直後、出場選手が心臓麻痺で死亡した。事件はヨーロッパ各地のプロサッカーリーグでも起こり、そこには危険な薬物が関わっていることが判明する。薬物を広める犯人は一体誰なのか。(T.T)

『百年厨房』

村崎 なぎこ/著 小学館 2022



913.6A

亡くなった祖父の建てた築100年の家に独りで住む大輔の前に、祖父の代に女中をしていたアヤがタイムスリップして現れる。大正時代のレシピで作るアヤの料理は、他人にも食事にも関心のなかった大輔の心を変えていく。(りんご)

『黒猫の遊歩あるいは美学講座』

森 晶麿/著 早川書房 2011



913.6円

若き大学教授・通称黒猫とその付き人の大学院生。主役なのに名前が出てこないこの二人が日常の謎を解いていく。ほんのりとした恋愛要素と、美学という哲学的な学術的要素が入り混じった連作短編推理小説。(モフモフ)

『癒し屋キリコの約束』

森沢 明夫/著 幻冬舎 2014



913.6円

風変わりなオーナー霧子が営む喫茶店「昭和堂」には、依頼人の抱える問題を解決する「癒し屋」という別の顔がある。依頼の度に常連客を巻き込み好き勝手する霧子だが、人を癒しながら自身の過去の傷とも向き合っていく。(おこめ)

『矢上教授の「十二支考」』

森屋 明子/著 祥伝社 2018



913.6円

母の実家のある街に大学の研究のため訪れた咲は、十二支の名のついた社社の謎や、歴史、地域問題に足を踏み入れてしまう。学部教授のユーモアの利いた謎解きをヒントに、咲は現代も続く不可解な謎に立ち向かう。(砂糖さん)

『レンタル・チルドレン』

山田 悠介/著 幻冬舎 2006

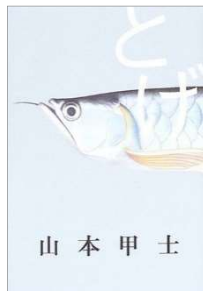


913.6円

最愛の息子を病気で失った泰史と冬美は、ある会社から息子そっくりの男の子をレンタルする。しばらくは、家庭に温かな時間が流れていたが、子どもの体に異変が起きる。不気味さやスリル感を味わえる一冊。(ずみやん)

『とげ』

山本 甲士/著 小学館 2005



913.6円

南海市の市民相談室主査倉長は、寄せられる苦情の対応に日々追われている。自分勝手な住民や旧態依然のお役所体質に辟易していたが公私共にトラブル続きで爆発寸前。酒席で市長と揉め事になり報復のため一計を案じる。(A2)

『ふたりみち』

山本 幸久/著 KADOKAWA 2018



913.6円

借金返済のため、一度限りのライブツアーを決行した67歳の元歌手ゆかりと、そんな彼女の唄を聞き、涙を流す12歳の縁。固い絆で結ばれたふたりは、共に支えあい、運命に逆らいながら突き進む。勇気を貰える物語。(かぼちゃ)

『私にふさわしいホテル』

柚木 麻子/著 扶桑社 2012



913.61

思い描いたような華々しいデビューができなかった新人作家の加代子は新作を執筆するために山の上ホテルにいた。そこに文壇最後のドンファンとして有名な作家・東十条宗典がいると知り……。逆境を打ち負かす痛快小説。(ことら)

『仮面の君に告ぐ』

横関 大/著 講談社 2017



913.63

和沙は結婚目前に何者かに殺害された。しかし1年後、病院で見知らぬ女性千鶴の身体に憑依して目覚める。和沙に与えられた時間はわずか10日。婚約者の慎介と再会を果たしたのも束の間、タイムリミットが無情に迫る。(パセリ)

『最後の息子』

吉田 修一/著 文藝春秋 1999



913.63

新宿のオカマバーのママと同棲しているぼくは、ある事件をきっかけに過去を振り返り始める。回想する形でぼくの日常の断片が淡々と語られていく。著者デビュー作の表題作ほか2編からなる短編集。(T)

『夢を与える』

綿矢 りさ/著 河出書房新社 2007



913.67

芸能界という華やかな世界で生きる主人公、夕子の物語。アイドルとして順調に成功していく夕子だったが、あるスキャンダルがきっかけで状況が一変する。母と娘、周囲の大人との関係を細やかに描く。(ずみやん)

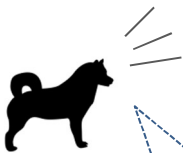
『学生時代にやらなくていいこと20のこと』

朝井 リョウ/著 文藝春秋 2012



914.67

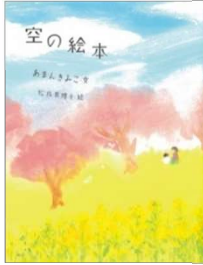
学生時代、恥ずかしい思いをした経験がひとつやふたつあるだろう。著者もそのひとりである。女子に注目されたくて始めた妙技、黒タイツおじさんとの遭遇、就職活動での失態など、大学生作家としてデビューした朝井の実体験が綴られている。(ずみやん)



ここからはエッセイやノンフィクションのジャンルから選んだおすすめ本です

『空の絵本』

あまん きみこ/著 童心社 2008



914.6 7

自身を支えてくれた沢山のあたたかい出会いや別れ、大切な人々からの愛情あふれる笑顔の記憶が、優しく童話作家らしい視点で書かれたエッセイ。幼い頃に感じた、輝かしく懐かしい記憶を呼び起こさせてくれるような一冊。(かぼちゃ)

『笑って、泣いて、考えて。』

永 六輔・さだ まさし/著 小学館 2016



914.6 I

日本のテレビ草創期から活躍した永六輔の、知識や経験という“財産”を後世に伝えるべく、さだまさしが実現させた永の最後の対談集。溢れ出る含蓄ある言葉、幅広い人脈や裏話と共に、話を引出すさだの聞く力も楽しめる。(Rin)

『質問 老いることはイヤですか？』

落合 恵子/著 朝日出版社 2016



914.6 1

かつて深夜ラジオで絶大な人気を誇った著者が、69歳を迎えた折に自身と人生の先輩たちに投げかけた問い。誰に遠慮することもなく、自分にとって本当に大事なものだけを握りしめて生きていく、老いていくと覚悟した姿は今に続いている。(⊕)

『ありがとう、さようなら』

瀬尾 まいこ/著 メディアファクトリー 2007



914.6 ㊦

著者が京都府の公立中学校で国語教師を続けながら作家として活動していた頃を書き綴ったエッセイ集。先生の毎日は辞めたくなる日もあるけれど感動でいっぱい。著者の優しく穏やかな語り口に癒される。(りんご)

『二度寝とは、遠くにおいて想うもの』

津村 記久子/著 講談社 2015



914.6 ユ

多忙な日々を過ごす中で生まれた感情や疑問、出来事がユーモラスながら芯のある言葉で書き上げられた一冊。兼業作家だった頃のエピソードも交え、自称庶民派芥川賞作家を名乗る著者が綴る脱力日常エッセイ。(かぼちゃ)

『ほんのきもち』

朝吹 真理子ほか/著 扶桑社 2018

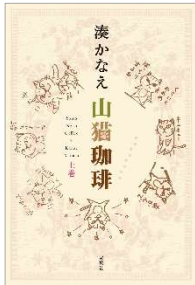


914.6 ㊦

16人の作家による、ちょっとした贈り物やおすそ分けにまつわるアンソロジー。親しい人に何かを贈ることの難しさやもらったときの嬉しさなど、作家の想いが詰まった一冊。巻末の贈り物リストが手土産選びの参考にもなる。(まる。)

『山猫珈琲（上・下）』

湊 かなえ/著 双葉社 2016・2017



914.6ミ

怒涛のように過ぎていく執筆活動の日々を癒し励ましてくれたのは大好きで大切な「山」「猫」「珈琲」だった。デビューから10年分のエッセイを収録。著者の夫が描いた愛猫マロンとミルの表情豊かなイラストにも注目。(りんご)

『思わず考えちゃう』

ヨシタケ シンスケ/著 新潮社 2019

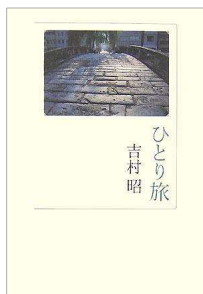


914.6ジ

人気絵本作家によるエッセイ。日々の中で気になったことや気付いたことなどが作者ならではの着眼点で愉快地綴られる。発想の転換やものの見方の変え方など、人生を楽しく生きていけるような提案が満載の一冊。(T)

『ひとり旅』

吉村 昭/著 文藝春秋 2007



914.6ジ

「史実はそのままドラマ」を信念とし、事実探求を徹底した記録文学作家・吉村昭のエッセイ集。作品に向ける情熱はもちろん、取材時に出会った人々の思い出、ATM 操作失敗談など人間味あふれる姿も発見できる。(ふっくん)

『屋久島ジウソウ』

森 絵都/著 集英社 2006



915.6フ

3人の編集者と著者が過ごした3泊4日の旅エッセイ。のんびり楽しく縄文杉を見に行くグループ旅行のつもりが、あれよあれよという間に屋久島の山々を縦走(=尾根を伝って山を歩くこと)することに。写真や挿絵も美しい。(菅さん)

『誘拐の日』

チョン・ヘヨン/著 米津 篤八/訳
ハルパ・コリス・ジャパン 2021



929.1フ

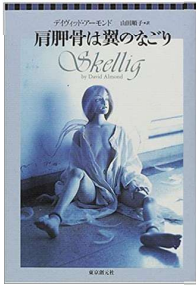
娘の治療費のため元妻から病院長の娘ロヒの誘拐を持ち掛けられるミョンジュン。飛び出してきたロヒを誤って車でね、ロヒは記憶喪失に。さらにミョンジュンはロヒの家で起きた殺人事件の容疑者になってしまう。(ノラネコ)

ここからは外国の作家による作品から選んだおすすめ本です



『肩胛骨は翼のなごり』

デイヴィッド・アーモンド/著 山田 順子/訳
東京創元社 2000



933.7ア

両親と生まれたばかりの妹と古い家に引っ越しをしたマイケルは、裏庭に朽ち果てたガレージを見つめる。そこには今にも死にそうな男スケリグがいた。内緒で彼の世話をするマイケルがスケリグの背中に見たものは。(菅さん)

『火星の人 (上・下)』

アンディ・ウィアー/著 小野田 和子/訳
早川書房 2015

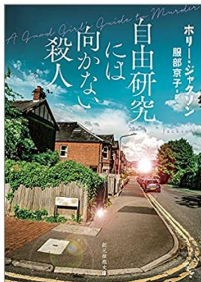


933.7ウ

宇宙飛行士のマークはミッション中の事故により一人火星に取り残される。植物学者でエンジニアでもある彼は、知識を駆使して生き延びようと奮闘する。次回の探査隊が到着するのは4年後。無事に地球に帰還できるのか。(わいわい)

『自由研究には向かない殺人』

ホリー・ジャクソン/著 服部 京子/訳
創元推理文庫 2021



933.7ジ

過去に起きた失踪事件を自由研究と称し再調査する少女の話。SNSを駆使した調査が進むにつれ明らかになる関係者たちの裏の顔。事件の犯人とされている少年の無罪を信じ、無念を晴らそうと奮闘する青春ミステリー。(まる。)

『クトゥルーの呼び声』

H・P・ラヴクラフト/著 森瀬 繭/訳
星海社 2017



933.7ラ

漂着した謎の地で異形と遭遇する「ダゴン」。おぞましい神を崇拝する閉鎖的な集落からの脱出劇「インスマスを覆う影」。奇オラヴクラフトを元祖とし現在も成長を続けるクトゥルー神話、その深淵を覗く一冊。(ふっくん)

『監禁面接』

ピエール・ルメートル/著 橋 明美/訳
文藝春秋 2018



953.7ル

失業から4年。妻との生活を守る為、再就職に挑み続ける57歳のアランに届いたのは、異様な面接試験の通知だった。家族の反対を押し切り、一流企業への怒りと賭けに暴走する姿が三部構成で描かれ、怒涛の展開が待ち受ける。(Rin)

『ペンギンの憂鬱』

アンドレイ・クルコフ/著 沼野 恭子/訳
新潮社 2004



983ク

鬱病のペンギンと暮らす売れない小説家に舞い込んだ、生きている人間の追悼文を書く仕事。ソ連崩壊後のウクライナを舞台に、その仕事がきっかけで陰謀に巻き込まれ、しまいには自らの最期を悟った男を描く。(まる。)

ヨコワン 2022
図書館員が選んだおすすめ本 100 冊

2022 年 10 月 21 日

横手市立図書館

【問合せ】

図書館課(雄物川図書館) 電話 0182-22-2300

〒013-0205 横手市雄物川町今宿字鳴田 133